

授業 科目名	【G】 【H】 【I】	— 法学政治学演習Ⅰ・Ⅱ D 法学政治学演習Ⅰ・Ⅱ D	区 分	開講年次	【G】— 【H】2 【I】2	単位数	【G】— 【H】2+2 【I】2+2	
科目区分	専門科目							
授業形態	対面開講							
担当形態	単 独							
施行規則に定める科目区分又は事項等								
サブ タイトル	民事法の導入演習			担当者	伊禮 誠汰			
授業概要	【概要】	<p>本演習は、これから民事法を本格的に勉強する学生を対象に、民事法の基礎を学習することを目的とする。法学政治学演習Ⅰでは、民法の基本事項の理解を深めるために活動をする。法学政治学演習Ⅱでは、民法に加えて民事手続法の導入にもチャレンジし、3年次以降の学習への橋渡しを試みたい。どの文献を扱うかは受講者とともに決定するが、さしあたり以下の文献のいずれかを輪読することを提案したい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道垣内弘人『リーガルバイシス民法入門〔第5版〕』（日本経済新聞出版社・2024年） ・山本敬三監修・香川崇＝竹中悟人＝山城一真『民法1 総則』（有斐閣・2021年） ・山本和彦『よくわかる民事裁判〔第4版〕』（有斐閣・2023年） 						
	【到達目標】	<ul style="list-style-type: none"> ・民法の基本的な事項について理解し、自分の言葉で説明することができる。 ・3年次以降に民事手続法について学習するための土台を形成することができる。 						
履修条件	担当者による選抜に合格し、履修登録を許可された者であること。 原則として、各学期の履修登録確定前に担当者が指定する科目（主に民法・商法）を併せて履修すること。							
アクティブ ラーニング の方法	【○】	事前学習型	【－】	反転授業	【○】	調査学習	【－】	フィールドワーク
	【－】	双方向アンケート	【○】	グループワーク	【○】	対話・議論型授業	【－】	ロールプレイ
	【－】	プレゼンテーション	【－】	模擬授業	【－】	PBL	【－】	その他
ディプロマ・ ポリシーとの 関連性	DP（ディプロマ・ポリシー）①	◎（よく当てはまる）						
	DP（ディプロマ・ポリシー）②	◎（よく当てはまる）						
	DP（ディプロマ・ポリシー）③	◎（よく当てはまる）						
	DP（ディプロマ・ポリシー）④	－（当てはまらない）						
他科目との 関連性	法学入門、民法概論、商法概論							
教科書	特定の教科書は指定しない。必要に応じて資料を配布する。							
参考書	講義の進捗に応じて、適宜講義内で紹介する。							
評価方法	発表・課題提出55%、積極的な発言（コメント）などの授業貢献45%で評価する。							
フィードバック 方法	発表を行った場合は、フィードバックを行う。							
評価基準	民事法の基本事項を十分に理解している者にSまたはA、相応の理解をしている者にB、最低限の理解をしている者にC、それ以外をD、Eとする。授業参加回数（課題の未提出含む）が著しく少ないなど評価不能の場合はFとする。							

授 業 科目名	【 G 】 【 H 】 【 I 】	— 法学政治学演習 I・II D 法学政治学演習 I・II D	区 分		【 G 】— 【 H 】 2 【 I 】 2	【 G 】— 【 H 】 2+2 【 I 】 2+2
			選 択 必 修	開講年次		
授業内容						<p>本演習は、主に以下のアプローチをとる。</p> <p>① 受講者による担当者が指定した論文の分析・報告とディスカッション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・報告時間は概ね30分から40分とし、その後、報告のない学生と質疑応答をしてもらう。 ・残り時間で、報告に関連するテーマにつき、受講者全体でのディスカッションを行う。 ・受講者は必ず毎回発言することとし、それを授業参加と判定する。 ・報告の仕方、レジュメの作成方法については、初回に説明する予定である。 <p>② 文献輪読とディスカッション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的には担当者指定の教科書・参考書・論文の一つのセクションを輪読し、その部分についての整理を行い、その後ディスカッションをする。 <p>※ 基本方針としては以上であるが、担当者の指定文献に限るのではなく、受講者が自主的に報告を希望する文献等があればそちらを優先することとしたい。</p> <p>※ 以上を年間通して進めていく。</p> <p>〈アクティブラーニング〉</p> <p>本演習では、学修の様々な場面で履修者どうしの相互評価を行う。上記のように、講義中の報告を聞いた学生に、報告者へ質問をすることを求めたり、報告の出来栄を採点してもらったりするため、自分が資料作成や報告を担当しない回も含めて、常に主体的な姿勢で学修に取り組むことが必要である。</p>
予習内容						<p>報告予定の文献を受講者全員が読むこと。</p> <p>授業ごとの予習時間は120分程度を目安とする。</p>
復習内容						<p>教科書・関連文献を読み込むこと。</p> <p>授業ごとの復習時間は120分程度を目安とする。</p>
その他						<p>無断欠席（理由のない授業不参加）が3回以上となった者には単位認定を行わない。</p> <p>ポケット六法を持参すること。</p> <p>講義中のスマートフォンの利用を禁ずる。</p> <p>※H・I加：【Iは選択必修（A）・IIは選択必修（B）】</p>